

国際交流基金ロンドン日本文化センター主催
「日本語学習者による小噺プロジェクト」実践持ち寄りワークショップ
参加者募集要項

本ワークショップは、昨年度からロンドン日本文化センターが進めている小噺を活用した日本語学習に関して、既に当手法を実践している英国各地、欧州各地の小噺指導の実践者が、実践の知見共有を通じて、教育現場や学習者にあつた導入や指導法への洞察を深める機会を提供します。皆様の多様な現場での実践、実践のプロセスでの発見や悩み、あるいは新たな実践の計画を持ち寄って、具体的な実践例を鑑賞しながら、楽しく学び合うワークショップです。すでに実践を始めている方だけでなく、これから小噺を活用した日本語教育に取り組んでいきたい方の参加も歓迎します。

- 開催日時:7月16日(金)10:00-12:30(BST)
- 実施形態:オンライン(Zoom) ※詳細は参加決定者に後日通知します。
- 対象:英国および欧州の学習者を対象とする日本語教育実践に小噺の指導を取り入れている方、または近い将来、担当する教育プログラムに取り入れる計画がある方。
- 参加条件:国際交流基金事業広報を目的とする撮影・録画、アンケート、インタビュー等にご協力いただける方。オンライン受講に支障のない方。
- 定員:20名程度
- 応募方法:下記オンラインフォームにご記入の上、お申し込みください。

<https://www.smartsurvey.co.uk/s/ZQR3RI/>

※締め切り:6月28日(月)17時(BST)

- 採否の通知:本研修は少人数公募制で実施します。オンラインでご応募いただいた方の中から、国際交流基金ロンドン日本文化センターが応募内容を審査し参加していただく方を決定し、6月30日までに通知させていただきます。なお、採否に関するお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。

- 講師:畑佐一味氏(米国パデュー大学 外国語・外国文学科教授)
1989年イリノイ大学博士(教育心理学)取得。1983年より日本語教育に従事し、イリノイ大学、パデュー大学、モナシュ大学、ミドルベリー大学日本語学校等で教鞭をとる。専門は日本語教育と外国語教育でのテクノロジー利用。日本の古典芸能である落語や小噺を日本語教育に取り入れる活動を長年行っており、その実践から生まれた知見とリソースを広く発信し、公開している。

「小噺プロジェクト」のページ:

<http://tell.cla.purdue.edu/hatasa/rakugo/rakugobystudents.html>

「伝統芸能を題材にしたオンラインでの教育活動ー落語と紙切りを用いた実践事例ー」報告

<http://www.nkg.or.jp/wp/wp-content/uploads/2020/08/sekai-america202008.pdf>

- 講師からのメッセージ:

昨年の10月のワークショップをきっかけに皆さんが積極的に活動を進めていただいていることを喜ばしく、そして頼もしく思っています。今回は、その中で遭遇した問題や解決方法などを話し合う機会にしましょう。うまくいったこと、うまくいかなかったこと、やれそうなこと、やれなさそうなこと、時間の使い方、励まし方、あるいは行き過ぎの止め方、など計画段階、実施段階での諸問題について幅広く課題提起をしてください。また、実践をした方は参加者達のプラスとマイナスの反応を共有してください。実践がこれからの方は不安感を払拭できる場にしてください。新しいことの実践にはエネルギーが必要です。億劫になって、「まあ、いいか」と思いがちです、でもやらないと前には進めません。周りからエネルギーをもらって、億劫さを乗り越えるきっかけにしてください。